

■ 平成14年度事業概要 ■

I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

寄附行為第4条第1号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- 寄贈資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料） 4,668点
- 購入図書・雑誌 1,416点
- その他の購入特別資料 30点
- レプリカ作成・VTR、テープ、CD 1点

（別掲の統計・資料編資料編「資料収集状況」欄参照）

整理・保存 カード作成及び収蔵資料のコンピュータ入力並びに収蔵資料の寄贈・寄託目録作成等
閲覧 利用者 延べ3,777人

II 文学に関する展覧会・文芸講演会等の開催事業

寄附行為第4条第2号に掲げる事業は、次のとおり行った。

1 展覧会事業

(1) 常設展「北海道文学の流れ」

会期 通年
会場 北海道立文学館常設展示室
入場者 10,713人

展示の構成・内容は開館当時のものを踏襲しているが、常設展示室内に開設された特設コーナーでは「『アイヌ神謡集』の著者・知里幸恵」をテーマに、特別企画展「大自然に抱擁されて…～知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ～」のダイジェスト展示を実施した。

以下に、展示編成の基本を掲げておく。なお、〔 〕内は監修者名を示す。

〈札幌農学校と有島武郎〉〔高山亮二〕

このコーナーでは、ウィリアム・S・クラークの事蹟によって広く知られている札幌農学校（現、北海道大学。明治9年開校）の存在と活動を紹介するとともに、その農学校に学び、のちに母校の教壇に立って多くの後進を育成し、文学者・思想家として日本近代史に刻まれる仕事を残した有島武郎について、内村鑑三、新渡戸稲造、森本厚吉、ティルダ・ヘックらとの交流を含め、通算12年間にわたる本道在住期の足跡を概観した。

〈北海道文学の流れ—明治・大正期〉〔木原直彦〕

このコーナーで取り上げた主な文学者・関連人物名、事項名は次のとおりである（以下同）。

* 「空知川の岸边」国木田独歩

国木田独歩、佐々城信子

* 開拓期を彩る作家群

岩野泡鳴、幸田露伴、長田幹彦、島崎藤村、葛西善蔵、徳富蘆花ほか

* 漂泊の人・石川啄木

石川啄木、石川節子、橘智恵子、野口雨情ほか

* 有島武郎をめぐる人々

有島武郎、有島生馬、里見淳、武者小路実篤、志賀直哉

* 道産子作家誕生

武林無想庵、岡田三郎、森田たま、中戸川吉二、中村武羅夫、子母沢寛、素木しづ、長谷川海太郎

* 同人雑誌群

「路上」「路傍人」「君影草」「白夜」「歩み」ほか

* 来道作家の足跡（大正期）

文学地図（足跡図）—吉屋信子、宮本百合子、橘外男、宮沢賢治、宇野千代、長田幹彦、久米正雄ほか

〈北海道文学の流れ—昭和前期〉〔西村信〕

* プロレタリア文学の潮流

葉山嘉樹、小林多喜二、久保栄、小熊秀雄、島木健作、本庄陸男ほか

* 若い詩人の肖像

伊藤整、川崎昇ほか

* 来道作家の足跡（昭和前期）

芥川龍之介、里見淳、鶴田知也ほか

* 農民文学の世界

吉田十四雄、辻村もと子、板東三百、早川三代治、坂本直行ほか

* 戦時下の文学

林容一郎、中津川俊六、八木義徳、寒川光太郎ほか

〈北海道文学の流れ—昭和後期〉〔神谷忠孝〕

* 戦後文学の展開

風巻景次郎、武田泰淳、宇野親美、中沢茂、澤田誠一、木野工ほか

* ささまざまな座標Ⅰ

船山馨、亀井勝一郎、八木義徳、和田芳恵、長谷川四郎、李恢成、重兼芳子、高橋揆一郎、小檜山博ほか

* 旋風をおこした作家たち

原田康子、三浦綾子、渡辺淳一

* ささまざまな座標Ⅱ

荒巻義雄、藤堂志津子、佐藤泰志、川又千秋、佐々木譲、土居良一ほか

* 来道作家の足跡（昭和後期）

福永武彦、戸川幸夫、新田次郎、水上勉、開高健、大江健三郎ほか

* 活躍する作家たち

三浦清広、加藤幸子、沖藤典子、久間十義、見延典子、辻仁成、谷村志穂

〈北海道の詩〉〔原子修ほか〕

* 北海道の詩の黎明—20世紀前半—

吉田一穂、小熊秀雄、更科源蔵、伊藤整ほか

* 現代詩人の台頭

和田徹三、河邨文一郎ほか

* 日本の詩界での活躍

上林猷夫、桜井勝美、風山瑕生、武田隆子、原子修、鷺巣繁男ほか

* 新しい詩と詩論の展開

北海道詩人協会の創設、道内詩誌の現況、各賞受賞者

〈北海道の短歌〉〔田村哲三〕

* 北海道歌壇の動き

山下秀之助、酒井広治、小田観螢、中城ふみ子ほか

* 来道歌人

斎藤茂吉、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤史、宮柊二ほか

* 口語短歌

鳴海要吉、石川啄木ほか

* アイヌの歌人

バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市ほか

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

* 北方俳句の夜明け

松窓乙二、河東碧梧桐、牛島藤六、高浜虚子、長谷川零餘子、白田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか

* 俳句近代化への潮流

荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか

* 花ひらく北の俳句

斎藤玄、寺田京子、比良暮雪、佐々木丁冬ほか

* 俳句の現代

比良暮雪、佐々木丁冬、鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔藤本英夫〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

* 明治～昭和前期

鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、
田中五呂八ほか

* 昭和後期～平成7年

西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子

* 北海道の川柳社

道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介。

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

* 明治～昭和20年代

伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか

* 昭和30年代

石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか

* 昭和40年代以降

加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

(2) 企画展・特別企画展（※印の事業は財団の独自企画のものを示す）

●特別企画展「寺山修司展～テラヤマ・ワールド きらめく闇の宇宙～」

会 期 平成14年4月20日（土）～6月2日（日）（39日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室ほか

入場者 4,883人

特別企画展「寺山修司展～テラヤマ・ワールド きらめく闇の宇宙～」は寺山修司の終生のパートナーであった九篠今日子氏（プロデューサー）の協力の下、山口昌男氏（文化人類学者）の監修により実施された。展覧会は、その生涯をたどる上で貴重な実物資料に加え、寺山の創造した「宇宙」をイメージさせる展示空間構成、分散会場方式（文学館特別展示室・常設展示室特設コーナー・札幌大学・扇谷記念スタジオ ZOO）の採用、多くの関連企画の実施など、従来の文学展示の枠組みを変える斬新なものとなり、広く各方面で話題を呼んだ。

●特別企画展「大自然に抱擁されて・・・～知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ～」

会 期 平成14年8月3日（土）～9月23日（月）（38日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 3,006人

特別企画展「大自然に抱擁されて・・・～知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ～」は、19歳で夭折した『アイヌ神謡集』の作者・知里幸恵の世界を、祖母や伯母金成マツなど周辺の人々ともに紹介したものであった。幸恵の自筆資料や遺品、当時の写真などで構成された展示は『アイヌ神謡集』の世界を鮮やかに表現し、入館者の好評を得た。また、平成15年度には本特別企画展をベースとした、アイヌ文化フェスティバル事業「知里幸恵・生誕100年記念巡回展」が徳島・金沢・東京の国内3会場で実施される予定となっている。

●企画展「中沢茂 “ひとりの賑やかさ” ～根室と霧と芸術家たち～」

会 期 平成14年6月29日（土）～7月26日（日）（37日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室

入場者 704人

企画展「中沢茂 “ひとりの賑やかさ” ～根室と霧と芸術家たち～」は、平成12年度に受託した中沢茂関連資料の紹介を中心として実施された。根室に暮らした作家・中沢と交流のあった画家・茂木幹、木田金次郎、詩人・更科源蔵、根室の写真家・森紫朗などのコーナーを織り交ぜた構成で、日本の東端から発信された文学の姿を広く紹介した。

※企画展「東アジア詩書展」

会 期 平成14年6月8日（土）～平成14年6月23日（日）（14日間）
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 255人

本企画展では、現在第一線で活躍する日本・韓国・台湾の詩人たち60余人の、自作詩を自筆の書でまとめた作品が紹介された。また、付帯事業として「東アジア詩のつどい」、シンポジウム「東アジアの詩とわたし」が実施された。

※企画展「谷川俊太郎展」

会 期 平成14年11月2日（土）～平成14年12月1日（日）（25日間）
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 4,135人

「谷川俊太郎展」は、谷川氏が校歌の作詞者であることから、市立札幌開成高等学校が創立40周年記念事業として主催・企画した。谷川氏の全面的な協力の下、北海道では初めてその全軌跡を紹介する豊富な資料が一堂に展示され、大変な好評を博した。また、谷川氏の朗読パフォーマンス（文学館談話コーナー）には500人を超える観客を迎えることができた。

※企画展「イヌイット・アートの宇宙」

会 期 平成15年2月1日（土）～3月2日（日）（23日間）
会 場 北海道立文学館特別展示室
入場者 1,376人

本展示は、カナダ・トロント在住の岩崎昌子氏所蔵イヌイット壁掛けコレクションを中心に構成された。岩崎氏のコレクションは本国カナダでも高い評価を受けており、日本国内では初めての本格的な紹介となった。その作品を通し、イヌイットの人々の自然観、宇宙観を堪能できる展示として好評であった。

2 教育普及事業

(1) 文芸講演会（会場はいずれも北海道立文学館講堂）

- ① 演 題 トーク・セッション「寺山修司の光と闇」
講 師 九條今日子（人力飛行機舎代表・プロデューサー）
※他にパネリストとして山口昌男、J.A.シーザーら
日 時 平成14年4月20日（土）14時
入場者 111人
- ② 演 題 「知里幸恵のユーカラを語る」
講 師 萩中 美枝（アイヌ口承文芸等研究家）
日 時 平成14年8月18日（日）14時
入場者 143人

(2) 文芸セミナー (①～③はいずれも北海道立文学館講堂、④は同特別展示室)

- ① 演 題 鼎談「寺山修司の歌と句」
講 師 菱川 善夫 (北海学園大学教授・歌人)、西川徹郎 (俳句作家)、
田中 綾 (文芸評論家)
日 時 平成14年 5 月 4 日 (土) 13時30分
入場者 111人
- ② 演 題 「中沢茂と自然」
講 師 鳥居 省三 (釧路短期大学教授)
日 時 平成14年 7 月 7 日 (日) 14時
入場者 55人
- ③ 演 題 「マンガというメディア～その表現の可能性～」
講 師 伊藤 隆介 (北海道教育大学助教授)
日 時 平成15年 1 月19日 (日) 14時
入場者 38人
- ④ 演 題 ミュージアムツアー「イヌイットの芸術について」※
講 師 岩崎 昌子 (イヌイットアート作品収集家)
日 時 平成15年 2 月 1 日 (土) 14時、3 月 1 日 (土) 14時
入場者 81人

(3) 文芸講座等

- ① 演 題 「放送作家テラヤマと短歌」※
日 時 平成14年 6 月 2 日 (日) 14時
講 師 尾崎左永子 (歌人・エッセイスト)
会 場 北海道立文学館講堂
入場者 43人
- ② 演 題 「谷川俊太郎・朗読パフォーマンス」※
日 時 平成14年11月22日 (金) 14時
講 師 谷川 俊太郎 (詩人)
会 場 北海道立文学館地階談話コーナー
入場者 547人
- ③ 演 題 「文学館クリスマス・リーディング」※
日 時 平成14年12月17日 (火) 18時30分
出 演 熊谷ユリヤ (札幌大学教授)、ダイアン・ブラウン (詩人) ほか
会 場 北海道立文学館地階談話コーナー
入場者 66人

(4) 映像作品鑑賞のつどい（会場はいずれも北海道立文学館講堂）

- ① 作 品 「田園に死す」
※レクチャー：中澤千磨夫（北海道武蔵女子短期大学教授）
日 時 平成14年4月22日（日）14時
入場者 101人
- ② 作 品 「白い悪魔」
日 時 平成14年6月30日（日）14時
入場者 89人
- ③ 作 品 「月光仮面」
日 時 平成14年10月6日（日）14時
入場者 82人
- ④ 作 品 「馬喰一代」
日 時 平成14年12月1日（日）14時
入場者 95人

(5) インテリジェント・スクール

- ① 演 題 自由朗吟「とぶ雅歌や一寺山作品を読む」
講 師 西川 徹郎（俳句作家）ほか
日 時 平成14年5月4日（土）15時30分
会 場 扇谷記念スタジオ（ZOO）
入場者 68人
- ② 演 題 「マイ・メモリーズ・オブ・テラヤマ」
日 時 平成14年5月18日（土）14時
講 師 笠井 嗣夫（詩人・評論家）
会 場 北海道立文学館講堂
入場者 68人

(6) ファミリー文学館

- ① 「夏休み 文学道場～中・高生のための創作講座～」
期 間 平成14年7月30日（火）～8月2日（金）（4日間）
講 師 加藤 多一（児童文学者）、蜂谷 涼（作家）、吉井よう子（作家）、
吉川 慶子（國學院短期大学講師）
会 場 北海道立文学館講堂
参加者 延べ79人（終了後に「夏休み文学道場作品集」を刊行。）

今年度の夏のファミリー文学館は、従来最も入館者層として少なかった中学生・高校生を対象とした短編小説の創作教室を実施した。「なぜ書くのか」「どう書くのか」にテーマを絞った講座は文学をめざす子

どもたちにとって価値ある学習の場となった。

② 絵本原画展「散歩しながらうたう唄～森雅之まんが原画展～」

期 間 平成15年1月11日（土）～1月26日（日）（14日間）

会 場 北海道立文学館特別展示室及び講堂

入場者 1,021人

併せてギャラリー・トーク（1月12日、講師：森雅之）を実施。入場者88名

文学館として、初めて取り組んだ漫画をテーマとした展示である。冬季間にもかかわらず、映画や美術、漫画など文学の枠をこえたジャンルに関心をもつ人々や幅広い年齢層からも多くの入場者を迎えることができ、今後の事業展開の上でも示唆に富むものとなった。

(7) ミュージアム子どもフェスタ

① ものづくり教室「万華鏡ワンダーランド～手作り万華鏡をつくろう」

日 時 平成14年11月2日（土）14時

講 師 岩渕 晃（ステンドグラス作家・万華鏡作家）

会 場 北海道立文学館講堂

参加者 42人

② レクチャーコンサート「楽器のひみつ・音楽のまほう」

日 時 平成14年11月3日（日）14時

演 奏 尾崎亜希子、筒井 あや、荒川るり子

会 場 北海道立文学館地階談話コーナー

入場者 81人

③ セミナー「これが絵本の底ちから～絵本で型破り子育て～」

日 時 平成14年11月4日（月）14時

講 師 谷地元雄一（児童クラブ「ホロホロ」指導員）

会 場 北海道立文学館講堂

入場者 151人

文学館の社会教育施設としての活用を試みた新たな実践として「ものづくり教室」「レクチャーコンサート」「育児セミナー」の3事業を連続的に実施した。

(8) ～わくわく～こどもランド※

期 間 平成14年4月～平成15年3月（原則：各月第2土曜日12回）

会 場 北海道立文学館講堂

後 援 札幌市教育委員会、財団法人道銀文化財団

出 演 山の手図書館「おはなしかご」ほか

入場者 818人

就学前の幼児を主対象として、絵本の読み聞かせ、パネルシアター、人形劇、腹話術などバラエティーに富んだ演目を、地域のボランティアサークルの協力を得て実施した。

(9) 文学館ウィークエンド・カレッジ※

期 間 平成14年5月～平成15年3月（原則：各月第2, 4土・日曜日）
講 師 柴村 紀代（児童文学者）ほか（下表参照）
会 場 北海道立文学館講堂
受講者 652人

文学、芸術及び隣接諸分野に体系的にふれながら、さらに高度な専門性を備えた内容を継続的に学習する場として開講している。

【内 容】

（前 期）

教 科	科 目	講 師
文 学	絵本論の世界 近代日本の小説を読む 現代詩を読む	柴村紀代（藤女子大学講師） 藪 禎子（国文学者）・木村真佐幸（国文学者） 笠井嗣夫（詩人・評論家）
外国文学	ロシア文学講読 イタリア文学を読む	工藤精一郎（ロシア文学者） 工藤とも子（イタリア文学者）
文化論	アート散策	柴橋伴夫（美術評論家）
特別講座	露伴の文学的出発	関谷 博（藤女子大学教授）

（後 期）

教 科	科 目	講 師
文 学	絵本論の世界 近代日本の小説を読む	柴村紀代（藤女子大学講師） 神谷忠孝（北海道文教大学教授）
外国文学	ロシア文学講読 イタリア文学を読む	工藤精一郎（ロシア文学者） 工藤とも子（イタリア文学者）
文化論	アート散策	柴橋伴夫（美術評論家）
特別講座	映像論	中山昭彦（北海道大学教授）

(10) 文学館ロビー・コンサート（会場はいずれも北海道立文学館地階談話コーナー）

① 「ギター音楽と語りの夕べ～ヒメネスの『プラテローロと私』をめぐって～」※

日 時 平成14年9月21日（土）18時
演奏者 兼古 隆雄（朗読：原子 修）
入場者 66人

② 「ホワイト・コンサート」※

日 時 平成14年12月14日（土）18時30分
演奏者 北林 隆、榎本 裕之、星井 清（いずれもギタリスト）
入場者 102人

③ 「トランペット・クリスマス」※

日 時 平成14年12月22日（日）18時
演奏者 櫻井 匡（トランペット）、荒川るり子（ピアノ）
入場者 71人

III 北海道文学に関する調査研究事業

寄附行為第4条第3号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- ① 企画展「中沢茂 “ひとりの賑やかさ” ～根室と霧と芸術家たち～」関連資料調査
- ② 特別企画展「大自然に抱擁されて～知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ～」関連資料調査
- ③ 寺山修司関連資料調査
- ④ 近藤潤一関連資料調査
- ⑤ 百田宗治関連資料調査
- ⑥ 特別企画展・企画展の図録・リーフレット作成に要する調査

IV 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

寄附行為第4条第4号に掲げる事業は、次のとおり行った。

次の団体の事業に対して、後援名義並びに主共催名義の使用を承認して支援した。

- ① 児童文学者協会北海道支部
北海道児童文学学校
(原則として4月～3月の第1,3木曜に開校 北海道立文学館講堂)
- ② 北海道近代文学懇話会講演会
文芸講演会(3回)
(平成14年4月28日、7月20日、平成15年2月15日 北海道立文学館講堂)
- ③ 知里幸恵記念館「銀のしずく」記念館建設募金準備委員会講演会等
「知里幸恵の世界へのつどい」
(平成14年8月11,31日、9月1日 北海道立文学館講堂)
- ④ 北海道モンゴル文化の会
「モンゴルの音楽と朗読と映像の夕べ～モンゴルの白い馬～」
(平成14年8月17日 北海道立文学館講堂)
- ⑤ 中川町教育委員会
「斎藤茂吉記念第9回中川町短歌フェスティバル」
(平成14年9月13,14日 中川町エコミュージアムセンター)
- ⑥ 星座の会(有島記念館友の会)
文学講演会(1回)
(平成14年10月5日 北海道立文学館講堂)
- ⑦ 山の手図書館おはなしかご
「大人が楽しむおはなし会」
(平成14年10月9,10日 北海道立文学館講堂)

- ⑧ NHK 文化センター朗読教室（松井信子クラス）

「北海道ゆかりの文学を読む」

（平成14年10月20日 北海道立文学館講堂）

- ⑨ 絵本・児童文学研究センター

「第7回文化セミナー『児童文化の中のドラマ』」

（平成14年11月24日 小樽市民会館）

- ⑩ 古事記を読む会

「古事記語り部～音読と尺八響演コンサート～」

（平成14年12月4日 北海道立文学館講堂）

- ⑪ 恵庭市

「カリンバ3遺跡展」

（平成14年12月10日～同23日 北海道立文学館特別展示室）

- ⑫ 未来短歌会北海道支部

「現代短歌講話会」

（平成15年3月29日 北海道立文学館講堂）

V 啓発広報事業

寄附行為第4条第5号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- ① 施設案内、常設展リーフレット、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行。
- ② 広報誌「サンクンガーデン」第14号（平成14年11月）、第15号（平成15年3月）の編集発行。
- ③ 「北海道文学館報」第56号（平成14年7月）、57号（同12月）の編集発行。

VI 刊行物の刊行事業

寄附行為第4条第6号に掲げる事業は、次のとおり行った。

- ① 特別企画展「寺山修司展～テラヤマ・ワールド きらめく闇の宇宙～」図録の刊行。
- ② 特別企画展「大自然に抱擁されて～知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ～」図録の刊行。
- ③ 企画展「中沢茂“ひとりの脈やかさ”～根室と霧と芸術家たち～」図録の刊行。
- ④ 論集『寺山修司の20世紀』の刊行。
- ⑤ 『2002資料情報と研究』の刊行。

VII 北海道立文学館の管理運営受託事業

寄附行為第4条第7号による北海道立文学館の管理運営は、北海道と当財団との間に交わされた委託契約（4月1日締結）に基づき、適切に行った

VIII その他の付帯事業

① 博物館学芸員実習生の受け入れ及び実習指導

平成14年8～9月に10日間、北海道武蔵女子短期大学学生（2人）と東北学院大学学生（1人）、札幌大学学生（1人）、札幌学院大学学生（1人）、平成14年12月～同15年1月に10日間、北海道文教大学学生（1人）、北海道大学学生（1人）の計7人に対し行った。

② 古書バザールの実施

平成14年4月～同15年3月、文学館地階ロビーで通年実施（古書バザール実行委員会）